

## 感謝録

飯田 和晴兄 不破 満雄兄 加納 幸子姉  
三縄 博兄 三縄 都美子姉 坂田 淑姉  
下竹 祐三郎兄 下竹 由美子姉 武井 里花姉  
関野 純子姉 吉田 望姉 Scroggins 由紀牧師

## 記事:消息

### 過ぎにし聖日(8月11日)

- 一 仙台にお住いの関野純子姉が2年ぶりにシカゴを訪問、日本語部の礼拝に出席されました。礼拝後、皆で一緒にランチを共にして、いろいろと語り合い、楽しい一時を持つことが出来て感謝です。
- 一 ラート(wheel gymnastics)のコーチ、吉田望姉は、ヨーロッパで行なわれていた世界選手権大会が、今年初めてアメリカで開催されることになり、その準備のため去る6月からシカゴに来ておられました。その世界選手権大会は7月9日から14日まで、シカゴにある North Park University で開催され、日本選手が金・銀を獲得しました。大任を無事に果たし、間もなく日本へ帰られる吉田姉は、皆に挨拶をかねて日本語部の礼拝に出席されました。日本だけでなく、世界における吉田姉の今後の御活躍を祈ります。
- 一 由紀牧師の説教：“信仰の成長”と題して、ヘブル人への手紙 6章1ー8節からでした。信徒は初步的な教えばかりを繰り返すのではなく、子供が成長して堅い食物を食べられるように、義の御言葉を味わうことで靈的な糧を得ることができ、それは神の祝福にあずかる信仰です。どうか私たちが信仰生活において成長し、主イエスとの交わりを持つ、成長した信徒となれますように。
- 一 聖書研究は、ローマ人への手紙11章30ー32節からでした。パウロは、11章の終わりにおいて、ユダヤ人も異邦人も召して下さる神の深い知恵と知識、そしてすべてが神からきていることをほめたたえています。”わたしは、初め(アルパ)であり、終わり(オメガ)である”といわれた神の栄光を、私たちは仰ぎ見て、私たちに与えられた召しの意味を考えてみましょう。

\* 8月17日(土) 高谷和夫牧師の葬儀が次の如く行なわれます。

場所 First Congregational United Church of Christ

715 Wisconsin St. Lake Geneva, WI 53147

Tel: 262-248-3568

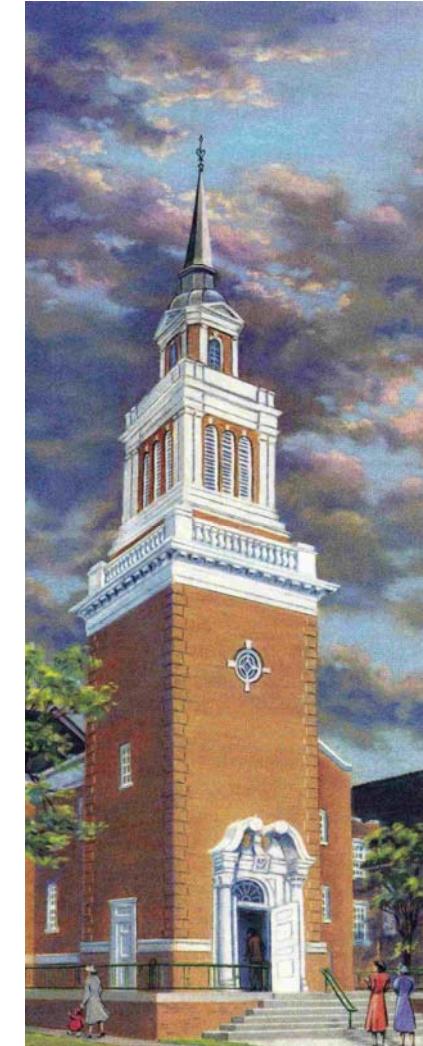
時間 1:00 – 2:30 pm Visitation

2:30 pm Memorial Service, followed by  
light refreshment

発行: 2013年 8月 13日 ノースショア・バプテスト教会日本語部

スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)

Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: [yscroggins@northshorebaptist.org](mailto:yscroggins@northshorebaptist.org)



## 週報

第3447号

2013年 8月 18日

ノースショア バプテスト教会 日本語部  
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640

Tel: 773-728-4200 Web: [www.northshorebaptist.org](http://www.northshorebaptist.org)

## 日曜日礼拝順序

2013年 8月 18日 午前11時 南部チャペル

前奏		武井 里花姉
讃美歌	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交説文	1 詩篇 1篇	
賛美歌	63 "いざやともよ いさみすすめ"	
祈りの時		Scroggins 由紀牧師
聖書拝読		下竹 祐三郎兄 エペソ人への手紙 4章 29-32節
賛美歌	56 "七日の旅路 やすけく過ぎて"	
説教	「証印を受けたもの」	Scroggins 由紀牧師
賛美歌	243 "ああ主のひとみ、まなざしよ"	
献金		加納 幸子姉
報告		
讃美歌	541	
祝祷		Scroggins 由紀牧師
後奏		武井 里花姉

(礼拝終了:奉仕開始)

祈祷・聖書学習会 午前9時45分 109号室  
ローマ人への手紙 12章 指導: Scroggins 由紀牧師

交わりの時 礼拝後 南部チャペル

### 今週の聖句

イザヤ書 5章 1-7節 詩篇 80篇 1-2, 8-19節

ヘブル人への手紙 11章 29節 - 12章 2節

ルカによる福音書 12章 49-56節

### 憩いの場

### 神の恩恵

"しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。 (コ  
リント人への第一の手紙 15章 10節)

わたしの祖父母や親の世代の人たちは、よく道端で誰かにあつたり、電話の会話の中で、"お元気ですか"と聞かれると、"おかげさまで元気にはしています"ということをいっていましたが、考えてみると不思議な言葉ですね。誰のおかげか、ということは全然はっきりしていないのですが、もしかすると英語では、"Thank God"に近いかも知れないと、この間思ったしたいです。クリスチヤンでなくとも、昔の人たちは誰かによって、また見えない存在に自分たちが支えられていると知っていて、こういう言葉が頻繁に使われていたようです。

他の誰かに支えられている、と認めることは、現代人にとっては心外なことかもしれません、聖書には私たちは日ごろから神の恩恵に支えられて生きている、ということが書かれています。パウロは、自分がかつて、クリスチヤンを迫害した使徒にはふさわしくないものであるが、神の恵みにより今日の自分があるといっています。いくら自分が傷いたとしても、それによって今の自分があるのではない、と彼は知っていたのです。神は多くの人たちを用いて、私たちに恩恵を授けてくださっています。先日、アメリカのニュースでも、福島第一原発の話が出していましたが、暑い中、冷房もないところで、傷かれている作業員の方々がいるおかげで、原発が保たれています。この方たちの貢献には本当に頭が下がります。ありがたいことです。心の目を開いて周りを見回せば、様々な人たちのおかげで、私たちは生きているのだと思い起こされます。どうか、私たちが神の恩恵に、また神に用いられて自分を支えてくれる人たちに感謝できますように。 (スクロギンズ由紀)